

HAKODATE アカデミック リンク<mark>2023</mark> CCH キャンパス・コンソーシアム函館

はこだて高等教育機関合同研究発表会

2023 1 1 3 12:00-16:00 <u>函館アリーナ</u> 金·祝 1 1 3 12:00 16:00 <u>図館市場川町1丁目32番2号</u>)

ブースセッション / 武道館

ステージセッション / 多目的会議室



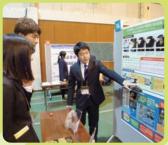
函館市内8高等教育機関の学生が一堂に会し、普段研究している内容や成果などをポスター展示や実演などによって発表し合う合同研究発表会です。会場では、学生とのコミュニケーションも楽しめます。 最先端の研究や地域課題へのアプローチなど、函館の学生たちの取り組みをぜひ見にきてください。

進路を考えるきっかけに

先輩たちの研究を学ぶチャンス

今、函館で学べることが見えてくる





街が僕らのアカデミア

函館市内にある8つの高等教育機関(大学・短大・高専)では、学生・ 教員らが持つ「体験」「発想」「探求心」から生まれる様々な研究が それぞれのキャンパスで進行中です。

これらの一端ではありますが、市民の皆さんにわかりやすくご紹介し、各研究テーマの協力・連携の可能性を探るべく各校が一堂に会します。今年は、4年ぶりに対面で開催します。当日は、ブースやステージでの発表をとおして、ここ函館を舞台に日々繰り広げられている研究活動がより身近に感じられるはずです。

中学生・高校生の皆さんには今後の進路決定の参考に、企業の皆さんには学生の発表から新たなアイデアを探し出す機会になりますので、 ぜひともご来場ください。心よりお待ちしています。

また、ポストイベントとして、アカデミックリンク成果展示会を11月 17日からCCHホームページ特設サイト(Web会場)で展示します。 こちらにもぜひアクセスしてください。

アカデミックリンク2023 成果展示会 211.17 ± 12:00 ▶ 12.17 □ 20:00

CCHホームページ特設サイト(Web会場)

https://www.cc-hakodate.jp/academiclink-web/



ブースセッション参加チーム

パネル展示や実演・解説

パネル展示を前に各種のデモンストレーションや解説などを行います。



CCH

CCHライブラリーリンク

人をつなぐ 本でつなぐ

ライブラリーリンクはキャンパス・コンソーシアム函館の もとに設置された図書館連携のための組織です。市内8高 等教育機関と函館市中央図書館が2009年から連携しています。各館の専門分野を活かし、充実した読書や学習環境を函館地域のみなさんに提供するため活動しています。

2 北教大 チーム めだか教育委員会函館支部

めだかの学校 輪くぐり稽古 ~メダカの学びでボクらも学ぶ~

水族館で人気のイルカの輪くぐりショー。学習心理学の 条件づけ理論に基づけば、イルカの輪くぐりはオペラン ト条件づけによるものであり、他の生物でも類似の成果 が期待できる。そこで、メダカを用いて訓練実験を行い、 輪くぐり学習が可能か検証を行った。

チーム代表 山本菜摘 チ ー ム 員 十倉昂輝・門田真宗・菊地なな子

3 未来大 サーム すういふと2023未来大生支援

未来大生支援アプリ

本グループでは、公立はこだて未来大学に在籍している 学生に対し、情報を取得しやすくすることで学生生活を 効率的に送れるよう支援することを目的としている。こ のプロダクトを提案することにより、学生が欲しい情報 を簡単に見つけ出せる環境を実現する。

チーム代表 大須賀 雅也 チ ー ム 員 南川虎之介・髙橋慧流・齊藤輝・鈴木利芳

4 特別参加 チーム 函館中部高等学校 流星光底

「蜘蛛となめくじと狸」 「セロ弾きのゴーシュ」における共起分析

本研究は、宮沢賢治作品の特徴が、テキスト中に表出し、 捉えることが計量的データにおいても可能であるかを明 らかにすることを目指し、共起ネットワーク分析を行っ 対象作品は初期の『蜘蛛となめくじと狸』と晩期の『セ 口弾きのゴーシュ』とした。

チーム代表 久保田ちひろ チーム員 切明歩花

5 極東大

チーム Царь-рыба (ツァーリ・リーバ)

ロシアにおけるチョウザメ

ロシア人は古くからコイや鮭鱒、ナマズなどの魚を利用 してきた。中でもチョウザメは、ロシア皇帝に献上された ことから「皇帝魚」と呼ばれた。本発表では、ロシア語文 献を多用しつつ、文化的・歴史的側面からロシア人とチョ ウザメの関係を紹介する。

チーム員福留聖司

6 特別参加 チーム 大学コンソーシアム学都ひろさき 学生委員会いしてまい

より良い弘前を創る・発信する

'いしてまい"とは津軽弁で「良すぎて仕方がない」を意 はし、「私前のために何ができるのか」を考え企画・実行 しています。主な活動は「飲食店企画」「衣類回収ポックス設置」「伝統文化企画」で、今回は活動目的・手段・成 果・今後の課題を発表します。

チーム代表 木村心星

チーム員 櫻木樹・平山櫻・奈良岡蓮理・天坂晃吏・ 今井愛華

7 北大水 チーム チームおしょろ

船で北極に行ってきました

今年の6月から7月に、北海道大学練習船おしょろ丸で北 マキの6月から行うに、北海道人子練音師のじょうれて礼権航海が行うれました。私たちの研究室では、北極海の海洋化学環境について研究を行っています。地球温暖化の影響で起こる環境変動が海洋中のガス成分の分布や 生物活動に与える影響を調べています

チーム代表 佐守那菜 チ ー ム 員 砂川優美・秋野僚太・松浦未來・戸澤愛美

未来大 高度ICT演習 はこだてSweets

函館スイーツの魅力を伝えるアプリ 「あまはこ」の開発

はこだてSweetsは函館スイーツの普及を目指すプロジェクトで、モバイルアプリ「あまはこ」を開発中です。今年は「あまはこ」で函館を元気にすることを目標に、iOS版のリ ースとAndroid版の機能追加に取り組んでいます。

チーム代表 石本直也

チーム員大柳裕士・袴田結女・田島鼓太郎・中北竜馬・樋田悠馬

9 函館大 チーム 西館大学・ドサンフレッシュサービス・東武トップツアーズ※ 函館支収

函館と台湾の架け橋! 函館の新定番ワンハンドグルメの開発

今回、来函インバウンドで多数を占める定期就航便のあ る台湾や中華圏のインパウンドをターゲットとして、中華圏の食習慣に合わせ、歩きながら食べることができるワンハンドグルメのニーズや商品などを発見・開発し、新 たな名物・製品として提言します。

チーム代表 武田光

- ム員 米田葉月・鈴木愛羅・濵野亜衣・田澤銀斗・ 大坂憂月・小川凜乎

10 北教大 チーム チームOcean Literacy

カード型教材で海洋リテラシーを育む

海洋リテラシーを育み、生物分類や食物網に関する情報 海洋サップンとで育めた主物が競りを被制に関する情報を表記した、幅広い生物種を扱った海の生き物のカード型教材を開発した。この教材を有効に活用できる単元で の授業案についても紹介する。

チーム代表 田口博敏チーム 員 無し

11 函高専 チーム MinatoLab_NITHC

アルコール濃度分析に関する研究

酒造りにおいて、製造時の発酵プロセスにおけるアル コール度数は非常に重要であるが、より簡便にアルコール度数を計測できる技術開発が求められている。本研究 では、液体検査技術の展開として、酒類に含まれるアル コール濃度の分析を試みた。

チーム代表 吉田大貴 チーム 員 外舘円心・堀拓也・柳原恋

12 函短大 チーム ねば2ま

完全栄養食プロジェクト

私たちは、地元企業との産学協同によって地場産物を活用した「完全栄養食レシビ」を考案しました。地域の健康づくりを目指した取り組みについて紹介します!一緒に「食」と「健康づくり」について考えてみませんか。

チーム代表 土橋蘭奈

ム 員 桒山游・櫻庭栞・今野誉・高村綾子・ 佐藤昌徳・安田吏歩・渡邊英菜

13 未来大 ^{チーム} 高度ICT演習 はこんだて

家庭を給食を繋ぐアプリ 「はこんだて」の発表

本プロジェクトでは、スマホアプリ「はこんだて」の開発 と運用を行なっています。はこんだては、自治体などが 公開しているオープンデータを活用して学校給食と家庭 を繋ぐことをコンセプトに、函館市や小中学校の協力の もと開発を進めています。

チーム代表 池山安杜里

- ム員 井田和樹・梶村拓斗・赤井暖太・圓子歩萃・ 國場あかり・木下瑠理・中西瞳俐・飯坂千尋

14 北教大 チーム

体育嫌いの子どもの増加を ジェンダーの視点から考える

皆さんは小学生の頃、体育が好きでしたか?体育嫌いの 音さんはパチェンダ、体育が好きとしたが、体育嫌いの 背景にはジェンダーの問題も潜んでいます。そこで、多様 な子どもたちが体育に親しめるようになるための課題に ついて、ジェンダー視点から研究しました。ぜひ私たちの ブースに足をお運び下さい!

チーム代表 池内新汰 チ ー ム 員 高橋美沙紀・石川真由

15 特別参加 チーム 函館中部高等学校 チームマリーゴールド

サンドイッチ法によるマリーゴールド のアレロパシー活性の評価

本研究では、マリーゴールドの葉、茎、花弁のレタスに対 する成長阻害活性をサンドイッチ法により検定した。結果、葉、茎、花弁にはレタスの幼根及び下胚軸に対して有 意な成長阻害性が認められ、特に葉において顕著な成長 阻害活性が認められた。

チーム代表 沢口麻央 ーム員無し

18 特別参加 チーム 青森公立大学 青森まちなかしかへらぁ~ら

青森駅前市街地活性化の取組

青森まちなかしかへらぁ〜sでは、青森市中心市街地で の清掃活動やイベントのボランティアを通して、中心市街 地活性化に向け尽力しています。今年度も市内大学生を 対象とし、中心商店街との連携イベントを企画中です。

チーム代表 荒関翔天 チーム員二宮綾音・中野ありす・阿部仁菜

20 函高専 チーム

薬のガチャガチャ

現在、いくつかの服薬支援製品がある。便利であるが、安 価な製品で4万円であり容易に購入出来ない。本機器では、出来るだけ安価にする。利用対象は高齢者から小児 までも対象とする。ガチャガチャの形を採用し子供が薬 の服用を少しでも楽しめるようにする。

チーム代表 閑田紀子 チーム員 齊藤雄介・海老田のあ・鎌田緋莉

23 未来大 チーム ふぁんろぼ研究所

エンタメロボットで 未来大を世界に発信

私たち"ふぁんろぼ研究所"では未来大を世界に発信するために、筋トレを頑張る「ぱわまろくん」、オコジョがモ チーフの「FUNJO」、愛らしいしぐさで癒しを与える「しっぱくん」の3つのロボットを製作中です。当日はこの3体 を皆様に紹介します。

ーム代表 伊藤怜哉

チーム員 芋田光希・佐々木涼・根本太貴・三浦馨莉・柳杭田さくら・鶴ケ崎美香子

26 函高専 チーム 鈴木研究室

避難所における要配慮者のための 情報把握用2次元コード付き缶バッチ

災害時に避難所へ避難した「要配慮者」の支援と本人情 報を避難所運営者が速やかに把握でき、かつ要配慮者 が普段から情報を所持できる方法として、必要情報を記 録した二次元コードを備えた缶バッジを活用したシステ ムを提案する。

チーム代表 佐藤望人 チーム員廣瀬優

29 函高専 チーム チーム「カゼイン」

酪農・乳製品業界への光明 ~牛乳由来の製品のブランド化事業計画~

牛乳の廃棄が課題になっているが、この一因は、バター 製造で副生する脱脂粉乳が過剰なためである。そこでわ たしたちは脱脂粉乳から人工皮革を作る方法について 検討している。この成果により「牛を殺さず牛から皮革 を作る」ということである。

チーム代表 佐久間希美

- ム 員 加藤りのあ・三川ゆい・西川景サミュエラ

16 大谷短 チーム

函館の地域振興イベントの現状を知ろう~ はこだてダイナマイトサマーフェス来場者調査

本研究は、「はこだてダイナマイトサマーフェス」の来場 者アンケート調査をもとに、地域振興イベントへ参加する人たちの属性や参加傾向の強い人の特徴を明らかに することを目的としている。さらに来場者を増やすため の今後の工夫や広報活動を検討する。

チーム代表 野村虹美

- ム員 川瀬ひな・窪田紫乃・竹越琥珀・田辺大空・ 山谷萌那実·吉田貴登



21 北教大 チーム やさしい日本語とやさしい伊藤の仲間たち

やさしい日本語で函館紹介

私たちのプロジェクトでは、日本語を母語としない方々 が理解できるように、函館の観光案内板に書かれている 日本語文をやさしい日本語に書き換える活動を行ってい ます。私たちの発表を通じて、みなさんに「やさしい日本 語」を知ってもらえたらうれしいです。

チーム代表 横向いず海 チ ー ム 員 更科明里・光井聖奈・古川まゆ・遠藤秀馬・ 永峰匠・平野真菜・船山花野・長峰希

24 特別参加 チーム 東京理科大学長万部キャンパス 東京理科大学

機能素材としてのDNAを活用した 地域医療への貢献

生命現象をつかさどるDNAは、高度な分子認識能を有 エ中・派家とプリアとるUNIAは、同度なリア・島岡郎とで有 し、かつ環境負荷が低い魅力的な"機能素材"とみなす ことができます。本発表では地域医療への応用を目指 し、機能素材としてのDNAの持ち味を存分に生かした DNAナノ構造体の設計について紹介します。

チーム代表 石山漣 チーム員 福森泰地

チーム 高度ICT演習 ばすうぃふと 27 未来大

函館ばすの利用をサポートする 「ばすうぃふと」

現在あるバス検索アプリ、バスロケーションアプリには、 利点・欠点があると考えました。本プロジェクトでは、そ れらを踏まえ、函館市のバスの利用をサポートするため のバス検索アプリを、函館バス様からデータをいただ き、開発を行っています。

チーム代表 池端麦 チ ー ム 員 坂部和音

30 北教大 チーム くるくる廻転コート

次世代太陽電池の電極作製

色素増感太陽電池は次世代の有機系太陽電池で、その電極には酸化チタン膜が使われる。この膜の厚みによって、発電量に違いが生じる。本研究では、膜の厚みを均一にできるスピンコート装置を作製し、酸化チタン膜を 制御する実験を行った。

チーム代表 吉田晃チーム 員 無し

17 未来大 ^{チーム} メタバースDEアバター

メタバースDEアバター

メタバーストで、人々がアバターとしてコミュニケーショ ンし、現実世界と異なる世界を体験できるデモを展示する。アバターには人工知能も混ざっている。人と人工知能が区別なくコミュニケーションできる未来では何が起 こるかを探究することが目標である。

チーム代表 出田光

チーム員横山直矢・齋藤天馬・西村光陽・上野大道・大原拓己・ 長瀬カイセイ・沼田晴登・金仁洙・中島一侃・白石侃穏

19 函館大 チーム Are you happy?

幸せMAXな街ってどこ?

函館に移住してきた学生について、移住する前の幸福度と都市規模の関係から、幸福度が最大になる都市規模 を調べた。

チーム代表 廣森圭佑

- ム 員 石栗侑奈・岩橋未郁・小野寺蒼・坂本愛華・鈴木愛羅・ 高山もか・武田翔太郎・平田桃菜・松本天人

22 極東大 ^{チーム} Победа (パベーダ)

諺と慣用句に見る 日本とロシアの発想の違い

言葉は文化や価値観を映し出します。今回の発表では、 ロシア語と日本語の慣用表現とその背後の文化を紹介 します。これらの表現がどう文化に影響するかにも触れ ます。言語は私たちの世界観を形成します。この発表で 新しい視点を提供できればと思います。

チーム代表 佐藤健太郎

チーム員 岩岡正悟・早川穂乃花・本間大祐・ -ノ渡夏菜・渡邉晟矢

25 未来大 デーム ヴェイダア・ラボ

データにもぐる・ひたる・さわる体験の 創出:交通、歌詞、市史統計を題材として

本ブースでは、多様なデータをユーザが身体的に知覚し体験できるインタラクティブなシステムや装置の研究として、バス運行データを可視化するBLIP、歌詞に浸るLyricBathe、市史統計データを物理的に表現する DDrPPをデモを通して紹介する。

ーム代表 赤石征也

チーム員 小島颯英・佐々木響希

28 北教大 チーム イカ墨をイカし隊

染毛料としてのイカ墨の利用

イカ墨色素による染毛はカチオン性物質などを混合す ることで達成されるが、毛髪をより濃く染めることが求められている。本研究では、染毛料の混合比率やpHを変えた毛髪サンブルを比較し、その結果から最も濃く染ま る染毛条件を検討した。

チーム代表 丁藤日依梨



31 企業・団体 ソフトバンク株式会社 アドバンスドテクノロジー推進室

ソフトバンクが取り組む 養殖のスマート化への挑戦

養殖におけるITの使用やAI化に向けた研究の一つであ る。魚の生態を取り入れた3DCGシミュレーションを行い、トレーニングデータセットを自動生成し、Deep Learningによって尾数カウントに成功した研究成果に ついて発表を行う。

チーム代表 石若裕子 - ム員 安居覚・利根忠幸

32 未来大 ^{チーム} クリエイティブAI

人工知能を用いた探索型2Dアクショ ンゲームの制作

本プロジェクトは、生成系AIなどの技術を利用したゲーム の制作を通して、人工知能の有用性と創造性を追求する ことを目的とする。本年度は、「深海を舞台としたループ の2Dアドベンチャーゲーム」の制作に取り組んでいる。

チーム代表 田中良磨

- ム 員 村岡広海・中村慶琉・山崎雄太・西口優太朗・ 山本拓摩・大柳裕士・関谷天希・松下瑚南・佐藤玲・森正樹・時永空侑・尾崎陽彦・鈴木壱・長瀬悠太

33 函高専 チーム 計算機応用実験室

視覚障害者向け屋内ナビゲーション システムにおける複数音提示手法の基礎検討

視覚障害者は、建物の出入口や内部構造を把握し難い という問題を抱えている。立体音響による複数の非言語 音提示によって周辺情報の把握可能な屋内ナビゲー ション手法を実現するため、仮想立体音響による複数音 提示時の音像定位に関する検証を行った。

チーム代表 福田暉斗

34 特別参加 チーム 青森中央学院大学 チーム青中

高齢者の運転免許の返納は 交通事故を抑制しているのか?

本報告では、自動車免許の返納が高齢者ドライバーによる交通事故を、どの程度抑制出来ているのかを回帰分 析によって明らかにすることで、高齢者ドライバーを含む全てのドライバーからなる交通社会の安全性を高める ことを目的としている。

チーム代表 山本佳太

チーム員成田行法・藤村歓思・兼平乙真・越谷柊斗

35 未来大 デーム Fun-i-Con

建設業界のDX -壁紙推薦アプリ-

私たちのチームは、「迷ってしまう壁紙選び」という課題 解決のため、壁紙推薦アプリの構築をしています。 札幌拠点の企業クロスティホールディングスと協力し、 現場の課題解決に挑戦します。

チーム代表 佐藤紘基

- ム員 西陽也・関崎証・小久保尚・今壮平・松下文太

異方性積層構造のための Region-wise ZIG-ZAG理論の開発

構造物に繊維強化プラスチック(FRP)を接着させて剛 性を高める接着工法において,精密な構造解析が可能 な Region-wise ZIG-ZAG理論を開発しています。この 理論を自由振動解析に適用して,精度検証を行った結果 について発表します。

チーム代表 落合楓

チーム員阿部健児・石田光陽・竹田誠吾

37 北教大 まんず

電荷膜に対するイカ墨色素の吸着

天然のイカ墨色素は染毛料への応用が期待されてい る。しかし、毛髪に十分吸着するための最適条件はわかっていない。本研究ではイカ墨色素の電荷膜に対する 吸着量と吸着時間をQCMで計測し、吸着条件の最適化 を行った。

チーム代表 松本紘幸チーム 員 無し

38 **西短大** デーム 要着グループ

養育者との関係が自分に与える影響

養育者との関係に苦しむ子どもが多いと考え、養育者と の関係についてアンケートを実施した。結果は以下の通りであった。親の躾に不満な人は16%。親からの嫌な言 動を経験したのうち82%がその体験が心に残っていた。 また虐待から前向きになる人もいた。

チーム代表 高橋ひなた チーム 員 岡山美空・工藤小春・武内杏樹・木村加奈子

39 未来大 デーム 小学校

校務支援システム

私たちは、桔梗小学校でのフィールドワークにもとづき 「教員の業務を支援するシステム」の開発をしています。 保護者との面談における日程調整の手間を減らすこと を目標に、スプレッドシートを用いて調整作業を効率的 に行えるようなサポートをしています

チーム代表 米野 有剛 チーム員 澤田隼斗・佐々木虎太郎・中野遥斗・其田凌佳

40 特別参加 チーム 函館水産高等学校 海洋技術科 課題研究23

マガキの種苗生産、 天然でも人工でもできました。

他地域に依存しない函館湾のマガキ養殖を安定して行 うために、本研究では、①継続して海水温を記録してマ ガキの天然採苗の安定を図ること、②自然環境に依存しない実験室において、人工採苗によるマガキの稚貝を生 産すること、この2つに取り組みました。

チーム代表 本多琥珀 チーム員清水大雅・山本怜

41 北大水 チーム・ダルス

ダルスの光るタンパク質で健康に!

紅藻ダルスはタンパク質や食物繊維を豊富に含む海藻ですが、函館近海のコンプ養殖ロープに繁茂する厄介者です。私たちは函館ダルスの食品利用に向け『ダルスの光るタンパク質』に血糖値上昇を抑える可能性を発見し ニズムについて紹介します ました。そのメカニ

チーム代表 太田龍成 チーム員松井百

42 函短大 チーム 地域課題解決型学習白府グループ1

自閉症児のための できる・わかる自立課題

自閉症の特性の現れ方は一人ひとり異なる。そのため、 る様な方法を用いてそれぞれの子どもの指導や評価を 個別的に考える必要がある。本研究では、自立課題の作成を通して、保育における自閉症のある子どもたちの支援の在り方を検証していくことを目的とする。

チーム代表 増川紀子 チーム 員 佐々木江梨・小田憂里

43 北教大 チーム 地球市民教育ゼミ

小学校英語教科書が描く国際理解

小学校英語の教科書(NHE)を国際理解・異文化理解の 観点から分析し、その特徴について考察し発表する。この教科書では国際理解がどのように描かれているのか を批判的に検証するとともに、学生から地球市民育成の ための提案をおこなう。

チーム代表 茶木優奈

44 企業・団体 ワークラボ函館

ワークラボ函館における活動内容

-クラボ函館は、2020年に開設したR&D拠点です。 「働く空間」から生まれる「データ」で「働き方」を変えることをミッションとする私たちは、地域経済の持続可能 な発展に向けて多様な働き方を創出し、その成果を函館 市に還元する活動をしています。

チーム代表 小玉拓矢 チ ー ム 員 山岸純也・小西貴裕

45 未来大 まーム

"ひとめぼれ"する バスロケーションアプリをめざして

本チームではバスアプリ『BuLo(ぶーろ)』を開発してい ることができます。

チーム代表 及川寛太 チーム員 下村蒔里萌・大津武琉・稲田敬介

46 北大水 **チーム** SEAP

コンブが世界を救う!:水産廃棄物が可能にする サステイナブルな家畜生産への道

北海道の水産業・畜産業は持続性に問題を抱える。その 課題解決を図り、メタンガス抑制・タンパク質不足解消・ 飼料自給率の向上・飼料高騰対策を可能とするサステイ ナブルな家畜生産への道筋をつける。本研究は褐藻類の 摂餌が羊の成長に与える影響を調べる。

チーム代表 辻井豪佑チーム 員 無し

47 企業·団体 南北海道学術振興財団

南北海道地域の学術研究と 科学技術のために

当財団は「南北海道地域における学術研究の振興を図 り、もって科学技術の進展を担う人材の育成並びに地域 の学術、教育、文化及び産業の発展に寄与すること」を目的に,大学教員等の研究や海外学会での発表,大学生・ 大学院生の留学に対して、助成をしています。

チーム代表 内藤雄太

ステージセッション

参加チーム 11分間の持ち時間で繰り広げられる ステージでのプレゼンテーションです。

ステージでの発表

13:10~

北大水 チーム MAAsの民

天然日焼け止め成分「MAAs」 含有量の変動を追う!

紅藻ダルスは函館近海にコンブ養殖ロープに繁茂する 雑海藻であり、食利用の少ない低利用資源です。私たち はダルスを有効利用できないかと考え、ダルスに含まれ る紫外線防御物質のマイコスポリン様アミノ酸(MAAs) に注目しました。

チーム代表 中日凛

チーム員瀧澤巧季・山本竜矢・森田理央

道南と青森における オシラサマ信仰の現在

道南地方と青森の文化的なつながりを示すオシラサマ 信仰について発表します。今年度は津軽でオシラサマ信 仰の調査を行った結果を踏まえ、道南と青森のオシラサマ信仰の共通性と差異を明らかにして、民間信仰の現在 の状況を考察します。

チーム代表 中居美穂 チーム 員 鳴海麗・下山昂大・藤田月夜・駒木希奏

3 函短大 チーム 保育と情報機器グループ

情報機器を用いる 子どもに合わせた教材開発について

近年、幼児教育における情報機器の活用方法が議論されている。生成AIの台頭による、知識がない人がアプリを作ることができるようになる未来を想定し、子どもに合わせて保育者自身がアプリのプログラムを書き換えて いく情報機器を活用した遊びを実践した。

チーム代表 秋庭幸子 チーム員 五十嵐心音・向絢音

4 北大水

チーム 劇場版 KOMBU×FAMILY CODE:Brown

プロジェクト<kelp>

函館市はマコンブが漁業生産額で1位を占める重要な水産物です。しかし、マコンブの漁業生産量および生産額は徐々に減少しています。マコンブの付加価値向上を目指し、新たな活用法として"フコイダン"と呼ばれる食物 繊維に着目しました。

チーム代表 濵崎海瑠 チーム員馬場淳平・張昕然・田畑太伍

5 函高専 チーム

薬のガチャガチャ

現在、いくつかの服薬支援製品がある。便利であるが、安 価な製品で4万円であり容易に購入出来ない。本機器では、出来るだけ安価にする。利用対象は高齢者から小児 までも対象とする。ガチャガチャの形を採用し子供が薬 の服用を少しでも楽しめるようにする。

チーム代表 閑田紀子 - ム員 齊藤雄介・海老田のあ・鎌田緋莉

6 極東大

チーム Царь-рыба (ツァーリ・リーバ)

ロシアにおけるチョウザメ

ロシア人は古くからコイや鮭鱒、ナマズなどの魚を利用 してきた。中でもチョウザメは、ロシア皇帝に献上されたことから「皇帝魚」と呼ばれた。本発表では、ロシア語文 献を多用しつつ、文化的・歴史的側面からロシア人とチョ ウザメの関係を紹介する。

チーム代表 弓田眞悟 ーム員 福留聖司

7 函短大 チーム 高血圧予防し隊

道南地域における高血圧の現状と考察

私たちは、地域住民の健康増進に役立てるため、高血圧 症の一因である運動習慣および食習慣に着目し調査を 行い、道南地域の生活様式の現状に沿った、高血圧症や 生活習慣病の予防について課題を見つけ、栄養士を目指 す学生の立場で考察したので報告する。

チーム代表 今野誉 チーム員 桒山遊・櫻庭栞

北大水 F-ム SEAP

コンブが世界を救う!:水産廃棄物が可能にする サステイナブルな家畜生産への道

北海道の水産業・畜産業は持続性に問題を抱える。その課題解決を図り、メタンガス抑制・タンパク質不足解消・ 飼料自給率の向上・飼料高騰対策を可能とするサステイナブルな家畜生産への道筋をつける。本研究は褐藻類の 摂餌が羊の成長に与える影響を調べる。

ーム代表 辻井豪佑 チーム員無し

9 函館大 チーム 函館大学・長栄大学共同チーム

道南地域の水産物消費拡大についての 研究 -中華圏の視点から-

私たちは道南地域の水産物の消費拡大の可能性について中華圏の視点から調査を行っています。台湾長栄大学 と共同し、質的・量的な調査から分析・考察し、水産物を 活用した商品の提案や、消費を促す効果的な商品設計・ 販売システムを提案します

チーム代表 小山内楓花 チーム員 篠田茉莉・澤田茜・髙山もか・名越 航太

10 北大水 デーム アクポニ部

どさんこアクアポニックス ~新産業の力で北海道を元気に!~

アクアポニックスとは魚の陸上養殖と野菜の水耕栽培を組み合わせた新しい農水産業です。これにより水や土 地などの資源を有効活用できます。私たちは北海道を元気にするために、サクラマスを用いた"どさんこアクアポ ックス"の実現を目指しています

チーム代表 小島悠暉 チーム員 會田有末・斎藤奈緒・宮脇敬士・富島章人・ 米田徳悦

アカデミックリンクの開催にあたり各企業の皆様から ご協賛を賜りました。ありがとうございました。

株式会社いちたかガスワン・株式会社エスイーシー・株式会社近藤商会・ 株式会社函館新聞社・株式会社北海道新聞社函館支社・喫茶アムール・ 函館山ロープウェイ株式会社・有限会社三和印刷(敬称略・順不同)

出展ブース、ステージの審査にあたっては、

次の企業・団体などの皆様にご協力賜ります。ありがとうございます。

産学連携「クリエイティブネットワーク」・市立函館高等学校・

北海道渡島総合振興局・株式会社北洋銀行・

特定非営利活動法人函館市青年サークル協議会・北海道退職校長会函館支部・ 北海道中小企業家同友会函館支部·北海道教育庁渡島教育局·函館市経済部

主 催 : キャンパス・コンソーシアム函館

加盟団体: 公立はこだて未来大学/函館大谷短期大学/

函館工業高等専門学校/函館大学/ 函館短期大学/北海道教育大学函館校/ 北海道大学大学院水産科学研究院•水産学部/

ロシア極東連邦総合大学函館校/函館商工会議所/函館市

援 : 北海道教育庁渡島教育局

お問い合わせ キャンパス・コンソーシアム函館 事務局

〒041-8655 北海道函館市亀田中野町116番地2

公立はこだて未来大学内

TEL. 0138-34-6121 FAX. 0138-34-6101 MAIL. info@cc-hakodate.jp

CCH キャンパス・コンソーシアム函館

公式サイトはQRコードからアクセス

https://www.cc-hakodate.jp/

